

「汚れたものは何もない」

2018年10月29日

ローマの信徒への手紙 14章13節～16節 従って、もう互いに裁き合わないようになろう。むしろ、つまずきとなるものや、妨げとなるものを、兄弟の前に置かないように決心しなさい。それ自体で汚れたものは何もないと、わたしは主イエスによって知り、そして確信しています。汚れたものだと思うならば、それは、その人にだけ汚れたものです。あなたの食べ物について兄弟が心を痛めるならば、あなたはもはや愛に従って歩んでいません。食べ物の中で兄弟を滅ぼしてはなりません。キリストはその兄弟のために死んでくださったのです。ですから、あなたがたにとって善いことがそしりの種にならないようにしなさい。

パウロは、「従って、もう互いに裁き合わないようになろう。むしろ、つまずきとなるものや、妨げとなるものを、兄弟の前に置かないように決心しなさい」と忠告している。隣人は皆主イエスのものであり、裁いたり、侮ったりしてはならない、終わりの日、神の裁きの座の前で一人ひとり申し述べることになるからであると言う。ここで、兄弟の前に置かないと決心しなさいと言っている「つまずきとなるものや、妨げになるもの」は何か。パウロは、それについて、「それ自体で汚れたものは何もないと、わたしは主イエスによって知り、そして確信しています」と書いている。この世のもので、汚れたものは何もないと言っている訳である。この言葉は福音の核心をなす言葉である。ユダヤ教社会は、食べ物に始まり、体・病、性、社会のあり方、祭儀、民族に至るまで、あらゆることが「清い」と「汚れている」に峻別されていた。汚れを離れ、清さに近づくことが義に達する道であった。しかし、浄、不浄が差別を生み出し、耐え難い不幸をもたらしていた。そして、この差別が宗教管理社会を成り立たせていたのである。主イエスは食べ物について、「あなたがたも、そんなに物分かりが悪いのか。すべて外から人の体に入るものは、人を汚すことができないことが分からないのか。それは人の心の中に入るのではなく、腹の中に入り、そして外に出される。こうして、すべての食べ物は清められる」と、食べ物は全て「清い」と言われた。「汚れた」食べ物を決して食べないユダヤ人にとっては、天地のひっくり返るような言葉であった。主イエスは食べ物だけでなく、全ての領域において、清さと汚れの壁を打ち破り、全てを清いものとされた。汚れた者を癒し、清い者として、社会復帰をさせたのが、奇跡物語のメッセージである。ユダヤ人が清く、異邦人が汚れているのではない。清さと汚れを取り払ったことが福音の本質で、人を分け隔てる差別からの人間解放の原点であった。パウロは、主イエスにこのことを知らされたと確信している。

汚れたものだと思うならば、それは、その人にだけ汚れたものに過ぎない。そしてまた、具体的な食物のことについて言及する。「あなたの食べ物について兄弟が心を痛めるならば、あなたはもはや愛に従って歩んでいません。食べ物の中で兄弟を滅ぼしてはなりません。キリストはその兄弟のために死んでくださったのです。」信仰が弱く、食べていいのかわからないのか、悪いのか迷っている人に対し、「あなたは福音の自由が分かってない」と、兄弟を責め、彼の心を痛めるのなら、あなたはもはや愛に従って歩んでいない。キリストが十字架で死んで、罪を赦しキリストの者としてくださった兄弟を、食べ物の中で滅ぼしてはならない。福音の知識を知るあなたがたにとって善いと思うことで、兄弟を非難するようなことにならないようにしなさい。パウロの弱い人々を顧みる深い配慮の勧めである。